



萱中だより

《校訓》 礼儀・自主・勤労・協同

三笠市立萱野中学校

校長 岩 倉 隆

三笠市萱野 192 番地 1 Tel 2-2308

発行：平成 31 年 3 月 25 日 <12 号>

のんき、こんき、げんき

三笠市立萱野中学校長 岩 倉 隆

授業に対する私の捉え方があるときから変わりました。今から 25 年ほど前に Windows95 が登場し、百科事典のデータが 1 枚の CD に収められたときからです。どんなに知識をもっている人でも、CD 1 枚に知識量はかなわないのです。

学校とは今まで人類が築き上げてきた文化や科学の業績を系統立てて教えて行く場です。私が子どもの頃は「知識量が多い人＝勉強ができる人」でした。

でも、「西郷隆盛」のことを知らなくても、PC で「西郷隆盛」と検索をかけると、1 秒もかからずに何万件もの検索結果が出てきます。一人の知識量には限界があります。

いろいろな本を読み、研修会に出かけ、私なりに出した結論は「集団で授業することに意義がある」ということです。皆で協力して 1 つの答えを出す。学校は集団思考をする場であると捉えました。それからは国語では討論の授業を目指しました。算数では答えの導き方どのよう考えたらよいかを話し合う授業を取り入れました。また、学級の問題も時間を掛けて話し合い、子どもたちだけで解決させるなどにも取り組んできました。そのやり方が定着するまでに時間のかかるものでした。

生活科や総合的な学習の時間の設立、主体的・対話的で深い学びの授業づくり（個人としての考えを持ち、皆で話し合うことで自分の考えを深め、課題を解決していく授業）など、学校現場にも同様の考え方が求められるようになりました。協力・協働・コミュニケーション、本来それは人間が進化して行く中で、一番の武器であったはずです。

ところが時代は集団よりも個人を優先し、「1 つ釜の飯」「同期」「同窓」なんて言葉は「古い」と言われるようになってきました。人と人とのつながりや人付き合いも希薄化がどんどん進みます。飲み会に誘うにも気を使う。極度に個人のことが知られるのを嫌う。大きな都市では町内会の組織率がどんどん低下している。近所付き合いも少なくなった、等々。

不思議なことに学校が取組んでいることと逆な気がするのです。時代の潮流と学校が求められている取組の溝を埋めるのは大変なことです。

そのために、未来を生きる子どもたちにどんな力をつけて行く必要があるのかを、学校・家庭・地域が一緒になって考えてきました。その答えの一つがコミュニティ・スクールです。今年度コミュニティ・スクールとなり、今までの取組を見直し、組織再編にあたりました。「あまり変わっていない」という言葉をアンケート等で拝見しました。私には褒め言葉です。自然な形で変わったのだと思います。2 年目、3 年目とできることを増やし、学校・家庭・地域が協力して、子どもたちの未来を考えていける組織なることを期待します。「のんき、こんき、げんき」です。

3 月 12 日、9 名の卒業生がそれぞれの希望の地に巣立って行きました。今まで、生徒を支えてくださった方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。これから先も、地域の皆様が、卒業生を温かく見守り、声をかけてくださればと考えます。人はふるさとを出て、初めてふるさとの良さを感じるものです。岡山小学校、萱野中学校、岡萱の地が子どもたちのふるさとであり続けることを切に願っています。

転出者ご挨拶



4月

- ◆日課 会議→下校15:00
5h→下校14:15
会議5h→下校14:35
- ◆SC
スクールカウンセラー来校日

校長

4月より江別市立豊幌小学校に異動することとなりました。本校には2年間お世話になりました。初めての空知、初めての校長、初めての中学校勤務でした。おまけに空知管内中体連会長も引き継ぎました。石狩ではできないような経験をたくさんさせていただきました。ありがとうございました。今後とも、学校と地域の発展を祈っています。

教頭

萱野中学校で勤務した3年間、楽しく充実した日々を送ることができましたのも皆様の笑顔、子どもたちの笑顔のおかげです。萱野で学んだ事を糧に新天地でも「笑顔」のために働きます。本当にお世話になりました。

養護教諭

1年10ヶ月と短い期間でしたが、大変お世話になりました。着任式初日、全校で式の準備や片付けに率先して取り組む誠実な姿勢を見て、驚きと感動を覚えました。こうした萱野中学校の良き伝統は、立派に今日にも引き継がれています。一人では辛く困難なことも、仲間が集まり協力することで、達成できる可能性が広がります。私も萱野中学校での経験を活かし、より子どもたちの力になれるよう学んでいきます。学ぶ場所は違いますが、気持ちは生徒の皆さんと一緒にと思っています。今後も、自分と仲間の心と体を大切に過ごしてください。応援しています。最後に、保護者、地域の皆様、ご支援とご協力をいただき本当にありがとうございました。

日	曜	学校行事	日課	給食	SC
1	月	年度始休業			
2	火				
3	水	臨時職員会議			
4	木				
5	金	着任式・1学期始業式・入学式		2・3年	
6	土				
7	日				
8	月	交通安全街頭指導① 職員会議 交通安全教室(5校時)、自転車点検	5h	○	
9	火	交通安全指導② 内科健診		○	
10	水	新入生歓迎会 2計測・視力・聴力検査		○	
11	木	前期役員認証式、委員会	会議	○	
12	金	CRT(1年)		○	
13	土				
14	日				
15	月	校内研修 岡萱コミュニティ・スクール委員会①	5h	○	
16	火	歯科検診		○	
17	水	授業参観・懇談会・PTA総会	5h	○	
18	木	全国学力・学習状況調査(国・数・英) 二者懇談(~26日)		○	
19	金	尿検査① 交通安全教室予備日		○	
20	土				
21	日	春のクリーン作戦(子ども会連携事業)			
22	月	心電図検査 小中合同研修会・部会	会議 5h	○	
23	火	振興会総会(給食後、下校)	4h	○	
24	水		会議	○	
25	木	生徒総会(6校時)		○	
26	金	委員会 尿検査②	会議	○	
27	土				
28	日				
29	月	昭和の日			
30	火	国民の休日			

<転出先>

- 校 長 江別市立豊幌小学校
- 教 頭 当別町立西当別中学校
- 養護教諭 退職

ご卒業おめでとう！

9年間にわたる義務教育最後の授業、「卒業証書授与式」が多くのご来賓の皆様にご臨席賜り、12日（火）に挙行されました。

小学校1年生から共に過ごしてきた8人。2年生から転入した男子を加え、9人となり、萱野中で過ごしてきました。卒業までの間、楽しい事ばかりでは無かったはずですが、それでも、そうした経験を糧に9人で支え合いながら成長してきました。

これから先、次々と目の前に課題が現れ、一人では解決が難しい時にチカラになってくれるのは「仲間」です。どうか、これからも「仲間とのつながり」を大切に自分の人生を自分の足でしっかり歩いて欲しいと思います。ご卒業おめでとうございます。



学習の成果

～地域科～

未来のみかさ絵・作文コンテスト

アイデア賞&努力賞

「未来のみかさ絵・作文コンテスト」で3年生さんがアイデア賞、さんが努力賞を受賞しました。

小学校から三笠市の産業、歴史や伝統芸能、ジオパークなどについて「地域科」で学習。その成果を発表したり、作文にまとめました。

三笠は生徒にとって「ふるさと」です。「ふるさと」を学び、高校へ進学し、三笠を離れても「ふるさと」に想いを寄せる、そんな人であってほしいと願っています。



思い出づくり&つなぐバトン

～ 卒業生を送る会・スポーツ大会 ～



全校生徒で行う最後の行事、「卒業生を送る会」とスポーツ大会が3月8日（金）に行われました。最後の思い出づくりにと生徒会役員のみなさんが企画・運営してくれました。

生徒会企画のレクリエーションをした後、3年間を振り返るビデオ上映をしました。1年生の時の懐かしい写真が映ると歓声が…。このあと、スポーツ大会（バスケット）で好プレー&珍プレーが続出。楽しく思い出づくりができました。準備を進めた生徒会役員・生活委員会のみなさん、ありがとうございました。こうした温かい雰囲気をバトンの様に次年度につないでいきましょう。

3月8日（金）午前中から駐車場に積もっていた雪の排雪作業を地域企業の「丸庭佐藤建設」さんのご厚意で行いました。毎年、排雪していただいているのですが、今回の現場監督は本校卒業生の さん。萱野中で学んだ後、高校を卒業し、就職して2年目。今では現場を任されるまでになり、学校や地域のためにチカラを分けてくれています。（昨年度の学校祭ではボランティアで照明係を担っていただきました。）もう立派な青年でした。

「恩送り（おんおくり）」という言葉があります。誰かから受けた恩を、別の人に送る。そしてその送られた人がさらに別の人に渡す。そうして「恩」が世の中をぐるぐる回り、“優しさの連鎖”が生まれる社会になっていく。実は、こうしたことが江戸時代では普通にあったそうです。

岡山小学校・萱野中学校で学んだ生徒のみなさんには、 さんのように社会人となっても心の片隅に「岡山・萱野の地域の方々から育てられた」事を忘れず、「恩送り」の原点となり、優しさあふれる地域社会の形成者となって欲しいと思います。

「恩送り」




北海道子ども相談支援センター 相談窓口について（お知らせ）

明日から年度末・年度始め休業（春休み）を迎えます。子どもたちが学校生活から離れ、家庭中心の生活となることから、一人で悩みを抱え込まないように、また、進級を控えたこの時期に、学校生活や進路等に関する不安や悩みを相談できるようにと、北海道教育委員会では、さまざまな機関で「窓口」を設けています。

右記の「相談支援センター」では、子どもだけではなく、保護者からの相談も受け付けています。

子ども相談支援センター 相談窓口のお知らせ

●電話相談

 0120-3882-56
(無料、毎日 24 時間対応)

●メール相談

doken-sodan@hokkaido-c.ed.jp
※急ぎの場合は電話相談を利用してください。

●来所相談

※10:00~16:00
(土日・祝日、年末年始はお休みです。)

子ども相談支援センター

札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館8階
※上記の電話相談で予約してください。

平成30年度PTA・CS活動への感謝

保護者の皆様には、この1年間大変お世話になりました。小中PTAが一つの組織となり、「萱岡小中学校PTA」として5年目。今年度はコミュニティ・スクール元年として手探りで活動を進めてきましたが、お忙しい中、皆様にPTAやCSの活動に参画いただき、誠にありがとうございました。寄せていただいたご尽力に対しまして、心からお礼申し上げます。

今の社会の中で、子どもは家庭だけでも、学校だけでも育ちません。あたり前のことですが、家庭と学校が連携し、且つ地域の皆様からも力をお借りして、子どもを育てることが大切です。その意味でコミュニティ・スクールは初年度、様々な課題がありました。工夫・改善を重ね、子どもたちのために、楽しみながら息の長い活動をしていただけたら幸いです。